

ASSOCIATION OF
MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

AMEI

News

2000年 7月14日発行

Vol.13

(社)音楽電子事業協会第4回通常総会開催



5月16日(火)午後4時より社団法人音楽電子事業協会・第4回通常総会が約70名の参加を得、ホテルエドモントで開催された。ご来賓として通商産業省・機械情報産業局・情報処理システム開発課・氏兼課長のご出席を頂戴しました。総会終了後午後6時より日頃お世話になっている関連団体・省庁の方々にもご出席を頂き、賑やかに懇親会が開催され、その席で、長年AMEIの顧問、副会長、専門員会委員長を献身的に勤められた、江間氏、則安氏、亀山氏、浜谷氏の4氏に檀新会長より感謝状・記念品が贈られた。

(写真：総会の会長挨拶、懇親会で4氏への感謝状贈呈)

CONTENTS

- 新任会長、副会長よりのご挨拶 2・3
- AMEI活動指針 4
- AMEI事業計画 5・6
- MIDI検定2級報告、MIDI検定実技試験予定 7
- DMF紹介 8・9
- モバイルMIDI-WG報告 10
- 組織、役員名簿 11
- AMEI会員名簿、AMEI会員専用ホームページのお知らせ 12

AMEI NEWS Vol.13 / 2000. 7.14

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9

イトービル4F

TEL. 03-5226-8550 FAX. 03-5226-8549

発行人：中田 健

編集人：福田 誠(広報委員会)

編集協力：株式会社 ラプラス

ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>



会長 檀 克義

AMEI 会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。おかげをもちまして、今年で AMEI も 5 年目という節目を迎えることができました。AMEI 設立から現在に至るまで、多大なご協力を頂いた会員の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、この度、第四回通常総会におきまして、理事会の推挙を賜り、会長就任という大役をお受け致しました。まだまだ不勉強ではございますが、この重責を果たすべく精一杯の努力を続けたいと存じます。今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

21 世紀を間近にひかえ、デジタルネットワーク時代への流れにもますます拍車がかかってまいりました。昨今では、"IT" をキーワードに情報通信関係のインフラ整備と、事業投資が拡大の一途を辿っています。特に携帯電話の普及は目を見張るものがあります。パソコン通信が普及をし始めて未だ年月が経たないうちに、移動中にも簡単にかつ確実に情報を発信・受信できるインフラが整ってきました。また、ソリッド・オーディオの普及に伴い、音楽データ配信ビジネスも急速に広がりを見せています。会員の皆様の中にも、データ配信や着信メロディといった新しいビジネスにすでに参入されておられる企業も多いと聞いております。

常に注目をしつつも、音楽電子事業にとってあくまで隣接事業としか認識していなかった分野で、MIDI が応用される。このようなことが、なお一層、身近な分野で広がりを見せていくと予想されます。すでにデジタル・ネットワークへのアプローチとして、USB や 1394 など、新しく提案される様々な規格との調整が始まっています。他の世界規格との親和性により、これからさらに発展するネットワーク技術への MIDI の応用が期待できます。また今後は映像の分野にも MIDI が応用されていくことでしょう。

業界を超えた幅広い分野における MIDI 活用をさらに促進していくことが、AMEI 事業の根幹であると認識しています。とりわけ通信ネットワーク時代に向けて、技術を軸にした活動を活性化させるのと同時にますます重要性を帯びてくるのは音楽著作権の研究活動でしょう。電子透かし技術の標準化はもとより、次世代ネットワークを常に念頭に置いた著作権保護の活動も手を休めることのできない大きなテーマです。

今年は、初の MIDI 2 級検定試験の実施や、デジタルミュージック・フェアにおけるミレニアム企画など、普及啓蒙活動においてもいくつかの話題性を提供できるものと確信しております。従来のやり方にとらわれず、常に将来を見据えながら、マルチメディアの健全な振興に寄与することを主眼に進めてまいりたい所存です。

AMEI の益々の発展のために、今後とも会員の皆様方のご支援、ご協力をあらためてお願い申し上げます。



副会長 保志 忠彦

21 世紀を目前にして、テクノロジーの進歩は、以前にも増してめざましいものがあります。それと平行して、近年人々の目は、かつて無い程著作権法に向けられている様に思われます。

それは恐らく、コンピュータやインターネットの普及により、多くの人々がコンピュータに触れ、インターネット等を通して、音楽を始めとする様々なコンテンツを直接取扱えるようになった事で、関連する法律関係についても、以前よりずっと身近なものに感じられるようになったからではないでしょうか。

一方、企業においても、著作権法は興味深いものとなりました。

書籍、レコード、映画といったそれぞれ独立したコンテンツを、一つの媒体に複合して納める事を、複合した後のマルチメディアコンテンツを、媒体を介さずネット上で流通させる事も出来る様にさえなりました、この事は、従来別々に成立していた情報産業において、その間にあった壁がとり払われ、異業種との交流が、活性化された事を意味します。

業務用のカラオケ業界に於ても、通信カラオケの登場をきっかけに、多数の企業が、異業種から参入して、その後それらの企業が、インターネットにコンテンツを有料配信したり、携帯電話に、着信メロディーのコンテンツを提供したりする様になった事などは、典型的な例と言えるでしょう。

これらの事から、コンテンツは財としての価値を高め、コンテンツビジネスには不可欠な著作権法との関わり合いは、一層深いものになりました。

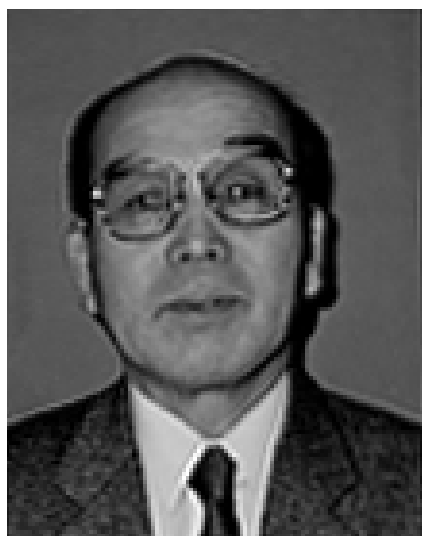
規制緩和、通信コストの低下等を背景として、ネットワークを利用した情報産業は、より多くの企業を巻き込んで、今後ますます発展して行く事でしょう。

しかしながら、なにごと新しい産業であり、次々新しい技術革新により新たな事業が発生する様な状況の中で、権利者と利用者間のルール作りが遅れているのが現状であります。

この事は、情報産業界全体として、将来に向けての大きな問題であります。AMEI としては、業界のリーダー的な役割を担って、積極的にルール作りに参加すべきであると考えます。そしてその事が、AMEI 会員各社の将来の利益に繋がる事を期待します。

幸いな事に AMEI は社団法人化して 4 年有余の間に、著作権委員会を中心として、JASRAC との著作権使用料契約交渉、文化庁への意見具申等を通じて、著作権法よのルール作りに多大な貢献を実績として残しており、業界のリーダー的な役割は、十分果たす事が出来ると思われます。

今後共、音楽電子産業界のみならず、関連産業の発展にも重要な立場である事を意識して、各部会が活発に活動して頂ける事を心から期待しております。



副会長 村井 博夫

AMEIが創立されて5年を迎え、歩んできた道は平坦ではなかったが、会員各社のご理解とご協力のもと、各専門委員会は、委員長以下委員各位の使命感と高い理想により、多大の成果をあげていただきました。「MIDI」のAMEIとしての社会の認知も確実になってきました。しかし乍ら会員各位のご満足と、ユーザーのご期待に答えているかといえますと、決して十分とは言えません。デジタル革命による価値観の変化はすさまじく、1980年代頭初より確実な予兆がでてきましたデジタル化の波も、電子楽器のハード&ソフトの生産優位と消費拡大により世界をリードしました。1990年代の電子楽器・デジタルオーディオ機器は、次第に情報機器化して予想の通りになってきました。2003年には音楽・楽器・オーディオ・ビジュアルの需要開拓はどこまで大きな期待と変化があるか？、予想がつかませんが大きなターニングポイントになる可能性があります。ブロードバンド（大容量通信帯域）の投資環境が拡大されて、ワイヤード、ワイヤレスを問わず、動画・音楽・文字・データ

ー・その他の、オーディオビジュアルのリッチメディアサービスが日常化してきます。又インフォメーションテクノロジーは、アクセスコストの低廉化と、利用の簡便化により、大衆化から個衆化に変わり、アトム時代の流行パターンに戻ることはないと考えます。エキサイティングに変化する社会の仕組みと、人間の英知と順応性は新しい社会観や人種、民族に合った新しい文化により、独特の価値と効果を誘発して膨大なマーケットの開発が進みます。AMEIの更なる使命として、ニューテクノロジーに対する利用技術の開発、なにかずく個衆化が進む顧客層に新しい夢とソリューションの提供に対し、会員各位の要望と期待にこたえるために、AMEIによるフォーマットやプロトコルの開発と、管理機能の確立を進めることにより、会員各社が大きな恩恵を受けて、飛躍的發展に結びつけることになります。私たちは小異を捨てて大道のもとに衆議を決し、会員各位に還元できる仕組みができればと思う次第であります。何卒絶大なご支援とご協力を期待いたしご挨拶と致します。



副会長 和智 正忠

この度、副会長の一人として選任されました事は誠に光栄に存じ、またその責任の大きさを痛感しております。力の及ばざる事少なからずやと危惧する所ですが、幹部の一員として会長を補佐し、協会と業界の発展のため努力いたす所存でございますので、何とぞご協力ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、来るべき21世紀は人類や地球にとって様々なリスク、たとえば人口爆発、環境汚染、資源枯渇、食料不足、南北問題等をはらんでいます。しかし人類は英知を結集し、多大な努力を払ってその緩和ないし解決を図って行くでしょう。また一方ではヒトゲノム解析に端を発するバイオテクノロジーの飛躍的進歩によって、様々な難病の克服や欠損臓器の再生が実現し、より多くの人々が健康の恩恵に浴し天寿を全うするようになる等の可能性も秘めています。日常生活面においてもその快適性や利便性が一層追求されていくに違いありません。そこで問題は、健康で長生きをし、便利で快適な生活をする人が、どうやって幸せを掴むかです。その有力な答えの一つに、様々な「多様性の価値（いわば文化）」重視というものがあるのではないのでしょうか？ ずいぶん前から個性が大事と言われていました。現状は未だ画一的価値の追求が目立つものの、最近の進学、就職傾向はこれが徐々に改められていく兆しに見えます。このような認識下、情報通信他の諸技術を活かして、新世紀における音楽文化発展、ひ

いては人々の幸せのために如何に貢献していくかは、音楽電子事業に携わる私たちに課せられた共通のテーマであると思います。音楽電子事業協会はそのために何が出来るでしょうか？ たとえば標準化され、かつ多様なアプリケーションやコンテンツを許容する基本システムの構築というテーマを考えてみましょう。この場合、公正な競争が可能で、かつこれを利用しようとする各企業が十分な投資意欲を抱ける事が必要です。一般にこのような条件を満たすことは大変難しく、また参画企業や団体間での意見調整などで議論が長期に渡ってしまうこともしばしばです。この場合、こうすれば良いという一般解がなかなか見つかりませんので、個別にねばり強く取り組むしかないわけですが、最後は上記の共通テーマという原点に返れるか否かが成否の分かれ目になると思います。

現状は市場が先行して、後からシステム整備を急ぐようなケースが多いように思います。それはそれとして、そろそろ当協会として、例えば「2020年頃までの音楽普及」をターゲットとした新たなコンセプトを創り、その土台となるシステムを構築するといったアプローチに取り組んでも良いのではないかと思います。様々な事業に関わっている方々の柔軟な発想を掛け合わせる事により、思わぬ成果が得られるかもしれません。特に若手の方々には期待したいと思います。



2000年を迎え 社団法人音楽電子事業協会の活動方針



21世紀を迎え、マルチメディア産業はネットワーク時代に入り、我々を取り巻く産業構造、個々人のライフスタイルが一変しつつあります。電子音楽にかかわる事業も大きくスピードをもって進展変化致しております。

このような状況下、マルチメディアの音・音楽についての中心的役割を果たす社団法人音楽電子事業協会は、音楽電子事業の拡大・発展の為に、MIDI規格の管理・普及推進・他事業領域へのMIDI活用促進、更に広くパソコン、オーディオ、カラオケ、音楽配信、通信事業、音楽ソフト制作等の事業者と協調し、技術の動向・方向性・発展について積極的に交流・調査し、技術動向に即応した音楽電子事業に関わる規格の標準化を進める事が大事になって参りました。

又技術の進展に伴う通信ネットワーク等による音楽配信は益々その様式が複雑になり、マルチメディア著作権の適正な権利処理が事業者、権利者の両サイドより急務となっており、著作権審議会の動向と相俟って、この研究が必須となって参りました。

このような時代背景に従い、社団法人音楽電子事業協会としては、2000年及び2001年の活動軸として、将来を見据えながら、マルチメディアの健全な振興を図って行くために、

- 1、MIDI技術の発展・応用研究、音楽に関わる事業者との技術交流による規格化・標準化の技術研究活動
- 2、通信ネットワーク時代を迎えた音楽著作権の研究活動
- 3、マルチメディアの中の音・音楽を担うデジタルミュージック活動の普及啓発活動

を軸に、音楽電子事業に関する生産、流通、商品等の調査研究、情報の収集及び提供、規格の立案及び標準化の推進、普及啓発の推進等を行うことにより音楽電子事業及び関連産業の健全な振興を図り、もって我が国経済の発展及び国民生活の向上に寄与する事を目的とします。

平成12年5月
社団法人音楽電子事業協会 会員一同



平成12年度の事業計画（委員会活動）

（平成12年4月1日から平成13年3月31日まで）



■（１）専門委員会及び部会の改名・新設 ■

- ①運営委員会（総務委員会と運営委員会の統合）
- ②著作権・ソフト委員会（著作権委員会とソフトウェア委員会の統合）
- ・ソフト部会 ・モバイル部会（1月より）の新設
- ・インターネット部会（伝送系部会）に改称
- ③13947プロジェクトの新設
- ④MIDI電子透かし推進プロジェクトの新設

■（２）ハードウェア委員会 ■

AMEIにおけるハードウェア委員会の存在価値を見直し、委員会社に、より価値あるものに活動内容を検討する。

（安全規格部会）（定款事業 第4条の1項及び2項）

- ①音楽電子機器のIEC安全性自主依頼検査の推進（8件）
- ②安全規格関連の規格調査と変動状況把握及び会員への情報提供
- UL6500対応についての技術検討、IEC60065第六版（ケーブル規制）、EN60065第二版の検討、技術交流会（JET）、各国規制変動の把握と情報提供
- ③EMC（電波障害）関連の状況調査と情報提供
- 各国規制情報の収集と会員への情報提供、技術交流会又は見学会
- 測定条件の研究（CISPR 13、ANSIC63.4等）

④PL関連情報の提供

（環境問題研究部会）（定款事業 第4条の1項及び2項）

- ①国内外の環境に関する法・規制等の動向調査、対応策の検討
- ヨーロッパの廃家電製品・電子機器の規制動向、日本の家電リサイクル法の動向、容器包装リサイクル法の動向（各社の対応状況の確認）、各国の化学物質の規制動向、等
- ②環境問題に関する講演会・勉強会等の実施
- 鉛フリーはんだの動向
- ③見学会
- 廃家電製品・電子機器の処理リサイクルへの対応、

■（３）MIDI規格委員会 ■

（定款事業 第4条の3項）

- ①新規格への取り組み
- ・MOBILE MIDI：携帯電話への配信用音楽データのフォーマットに関する検討、規格化。
- ・MIDIに関するMTL（Multiple Transport Layer）WGによるMMA（TLWG）との統一規格書の作成。
- ・USB対応 USBにおけるジッター、レイテンシー他問題提起、測定方法の検討、提案
- ②次世代対応MIDIの調査・検討
- ・MIDI1.0が作られ20年が過ぎ、業界外からのMIDI活用が活

発化している中、次期MIDIの将来展望を視野にいれ広く活用展開する為の次世代MIDIの調査研究。

- ③MIDI規格の普及・啓発
- ・各規格の整備、外部機関に対する普及・啓発、DMFでのMIDI規格関連のデモ
- ④MMAとの連携・協力
- ・MIDI規格の立案・作成のスピードアップ、その為のAMEIとMMAとの連携強化法を新たな視点で見直す。
- ・2001年NAMM7への実施

■（４）著作権・ソフト委員会 ■

（定款事業 第4条の1&4項）

（全体定例会）年間10回開催、各部会の活動内容の報告及び検討と会員の勉強会と問題提起のためのセミナーを外部講師を招いて実施（9回予定）

（ソフト部会）（定款事業 第4条の1項）

電子音楽ソフトウェアの市場育成及び業界の発展・活性化の推進、MIDIの普及啓発活動。

- *「デジタルミュージック17～MIDI WORLD 2000～」会期中「MIDI セミナー」を実施する。（12年7月21日予定）
- *AMEI電子透かしプロジェクトへの参画：普及WG（運用、普及啓発の施策の立案）
- *GML2対応WG（データ制作ソフトウェアの作成、データ制作者のための各種ツールの開発、互換性工場のための活動）
- *MP3フォーマット標準WG（MP3端末におけるMIDI関連フォーマットの調査、研究）

（カラオケ部会）（定款事業 第4条の1項）

- *「業務用通信カラオケによる音楽著作物の利用に関して」JASRACとの間で「業務用通信カラオケ規定」を平成9年9月合意をしたが、この内容について見直し協議をJASRACに提案、本規定化を含む合意協定書の作成。
- *レコード会社管理理由の問題他、業務用及び民生用カラオケに関する著作権問題を提起、検討する。

（インターネット部会）（定款事業 第4条の1項）

- *「ネットワーク音楽著作権連絡協議会」（8団体）を通じ、AMEI会員の意見を反映させた形でJASRACとの協議会を継続。
- ・「ネットワーク音楽著作権使用料無料分」（個人利用の著作権使用料—MIDIユーザーを擁護する立場にたって）

・「暫定・ネットワーク音楽著作権使用料有料分の正規規格化」に対応して行く。

（パッケージ部会）（定款事業 第4条の1項）

*パッケージ部会はJASRAC案「インタラクティブ再生が可能なソフトへの録音（CD-ROM）」料金案にたいして、レコード協会の対応をヒアリングしながら対応する。

（モバイル部会）（定款事業 第4条の1項）

*携帯電話の音楽ダウンロードサービス（着信メロディ等）における適正な著作権確立と使用料交渉。また適正な運営を行なうためのセキュリティなどの運用モデルの確立。

- ・着信メロディサービスの適正な著作権使用料をJASRACとの協議で獲得する。（携帯電話/PHSキャリアの事業者の参入促進）
- ・携帯電話インターネットサービスの拡大に伴う、様々なサービスモデルにおける著作権処理方法に対して、エディタ/リバイター間でのコンセンサス確立及びJASRACへの提言。
- ・携帯電話をプラットフォームとした、着信メロディサービス以外のサービスにおける著作権使用料規定の調整。
- ・適正なサービスが提供できる環境（キャリア、運用面）を携帯電話事業者とともに調整する。

（プロテクト部会）（定款事業 第4条の1項）

- ①AMEI標準MIDI電子透かしの推進プロジェクトの立ち上げ。（他部会、委員会との連携強化）管理運営手法の検討確立・普及啓発の具体的推進
- ②WGの続行
- ・MIDI電子透かし埋め込み方式の分析検討。
- ・透かし埋め込み情報の規格づくり。
- ・第2層の各社透かしとの技術的親和性の確認。

■ (5) 事業委員会 ■

(定款事業 第4条の4項)

- ①「デジタルミュージック・フェア～MIDI WORLD 2000～」東京国際展示場「東京ビッグサイト」西ホール(1F)にて7月20日より7月23日 4日間開催
 *「家族ではじまるパツル・マルチメディア：ばそまる2000」と併催(同日、同場所、同会場)する。
 *社団法人音楽電子事業協会、日本経済新聞 主催
 *後援：通産省、文化庁、日本楽器フェア協会

- *約40社規模の参加目標。入場者は「ばそまる2000」と共通の為、計約10万人が想定される。
 *特別企画ミレニアム・スペシャル
 『シンセサイザーミレニアム～楽器博物館～』
 『MIDIスペシャルトップフォーラム～電子楽器の発展と未来～』
 『MIDIセミナー～古今東西ミレニアム講座～』
 『1394を用いたオーディオデータの転送デモ』

■ (6) マルチメディア推進委員会 ■

(定款事業 第4条の4項)

- ①活動目的
 *マルチメディア産業内での電子音楽、電子音響技術に関する最新の知識情報に関する講演会・セミナーを開催して会員のマルチメディアに対する理解を深める事に貢献する。
 ②活動予定
 *「技術部会」講演会・セミナーの開催を中心に技術情報の啓発普及を計る。(年6回)

- 主たるテーマ予定：
 DVD AUDIO、モバイルAUDIO&MIDI、インターネットサウンド、音楽配信事例研究等
 *マルチメディア・テキスト(CD-ROM)の'99年版をAMEIホームページに公開する
 ③幹事会
 マルチメディア推進委員会の活動方向を検討する。

■ (7) デジタル・レコーディング委員会 ■

(定款事業 第4条の4項)

- メーカー間の技術的連携をとり、その活動成果の積極的を行うと共に必要情報をユーザーへ告知する。
 ①デジタル・レコーディングに関する知識情報の提供をホームページ上に掲載推進。
 機器の使用上の具体的問題点をユーザー自身が解決できるよ

- うな情報を入れてゆく。
 ②委員会メンバーの知識向上のための勉強会、講習会の実施。
 各メーカー製のデジタル関連機器間の良好なインターフェイスを確保できるように、各社の固有の機器との組み合わせによる動作の検証を行なう。
 ③ハンドブックの改訂版の検討。

■ (8) MIDI 認定制度研究委員会 ■

(定款事業 第4条の4項)

- ①第1回 MIDI検定試験2級の実施
 1次試験(筆記試験)5月28日 51会場
 2次試験(実技試験)7月 東京、大阪、名古屋 7会場
 ②公式ガイドブック2級の発刊 3月下旬 @¥3800
 公式ガイドブック3級の改訂版発刊 3月下旬 @¥2000
 ③「CLUB・MIDI」の設立、会報誌年2回発行予定
 3級合格者へのデジタルミュージック関連情報の発信、会員相互の交

- 流(ホームページを活用)、
 特別セミナー等の企画実施。
 ④3回MIDI検定試験3級の実施 平成13年1月28日
 受験対象の新たな拡大を狙った普及活動
 ⑤MIDI認定制度の認知普及活動
 2級合格者のプロモート(専門誌「マスダ」7、会員企業での活用等)

■ (9) 1394プロジェクト ■

(定款事業 第4条の3項&4項)

- IEEE1394の応用に関して「音楽電子事業の業界標準化作業と応用や実装に際し進めるべきテーマ」の推進。
 ・MPWG 1394でMIDIを伝送するための標準規格の確立(伝送パールのドメインと本体規格の確立)
 ・AMCWG 機器への実装のキーとなるAM7000に最適な

- 業界標準チップの仕様検討を行い、業界案として半導体メーカーに提案を行なう。
 ・CMWG 実際の利用状態で必要となる具体的なコネクションの管理方法の検討(既存のMIDI17、独自方式を含め)と標準化のための活動。
 ・業界への普及のためのプロモーション活動

■ (10) 広報委員会 ■

(定款事業 第4条の4項)

- ①会報「AMEI NEWS」を平成12年7月、11月、平成13年3月 計3回発行する。
 ②AMEIホームページを平成12年5月より下記、活用できるように改訂する。

- ・各委員会の会員専用のホームページを作り、議事録及び会議日程等のページを作る。
 ・会員相互意見交換のための掲示板を企画する。
 ・英語版の強化
 ③AMEI入会案内を平成12年7月までに改訂・発行する。

■ (11) 海外視察団の実施 ■

(定款事業 第4条の5項)

- MIDI規格委員会主催にて
 ①米国NAMM視察団の実施(平成13年2月)
 NAMMショウ 音楽電子事業の視察、情報収集

- ②米国MMA総会出席及びアミューズメント実施(視察団)
 MMAとの協議、情報交換 事項



MIDI制作現場の対応能力を認定する「第1回・MIDI検定2級試験」



ーコンピュータミュージックの共通ライセンスー
「MIDI」の管理・推進は(社)音楽電子事業協会が一元的に行っています。
「MIDI」は(社)音楽電子事業協会の登録商標です。

- ◎主催：社団法人音楽電子事業協会
協力：日本シンセサイザー・プログラマー協会
後援：(会場、機材、ソフト等の協力)
●アップルコンピュータ(株) ●(株)インターネット ●(株)オービット・ミューズテクス
●カモンミュージック(株) ●名古屋自由学院自由学院短期大学 ●日本工学院八王子専門学校
●富士通(株) ●(株)ミディア ●(株)メガフュージョン・カメオインタラクティブカンパニー
●ヤマハ(株) ●ローランド(株)

◎「MIDI検定試験の目的」

発展を続けるマルチメディア社会の中で、文字や映像などと並び、重要な要素の一つに音/音楽があげられます。そしてマルチメディアの音/音楽の中で中心的な役割を果たしているのが、いわゆるMIDI規格です。MIDI規格は、電子楽器の制御プロトコルとしての活用はもとより、電子音楽のソフトウェア、コンピュータネットワークでやりとりされる音楽データや、通信カラオケの送信データにいたるまで、電子音楽の事実上の標準規格となっています。このような状況のなか、MIDIを使った音楽制作の現場では、MIDIに関する知識を持ち、データの制作・監修ができる人材が求められているのが現状と考えます。2級検定試験では、このような音楽制作現場で即戦力として活躍できる人材の育成と認定を行うものです。認定試験のレベルは高度な基準が求められますが、企業現場に音楽制作のプロとして推薦できる人材の育成と認定を目指します。

◎「MIDI検定2級1次試験結果」

5月28日 午後1時30分～3時まで全国47会場で筆記試験が行なわれた。

2級受験申込み979名、実受験者数858名、1次合格者350名

合格率(総申込みに対して)35.7%であった。

合格者の地域分布

地域	受験者 (申込み)	受験者分布 (%)	合格者	合格率 (%)	合格者分布 (%)
北海道	28	3	8	28	2.3
東北	21	2	9	43	2.6
関東甲信越	565	58	200	35	57.1
東海北陸	104	11	39	38	11.1
近畿四国	219	22	81	37	23.2
広島	16	1	8	50	2.3
九州	28	3	5	19	1.4
合 計	979		350	35.7	

* 受験志願者(学校団体153名:15.6%)

◎「MIDI検定2級2次試験の実施要項」

- ・受験資格：「MIDI検定2級筆記試験(第1次試験)」合格者
(筆記試験合格者の2次実技試験受験の有効期限3年間～平成14年の実技試験迄有効)
- ・試験概要：MIDIデータ入力及び編集技能の実技試験
機材設定から課題項目制作まで
- ・受験料：10,000円
- ・日時及び場所：2次試験の会場選択及び使用機材

試験会場	OS	シーケンサソフト	音源	日程(7月)
アップル東京会場	iMac OS9)	Performer6.03	ヤマハMU2000	11(火)/14(金)/24(月)
"	iMac OS9)	Cubase VST4.1	ヤマハMU2000	11(火)/14(金)/24(月)
"	iMac OS9)	Vision DSP J4.2.1	ヤマハMU2000	11(火)/14(金)/24(月)
ローランド東京会場	iMac OS9)	SingerSongWriter4.0	ローランドSC-8850	27(木)/28(金)
"	Windows98(FMVK350L3/C355L3)	Cakewalk ProAudio9	ローランドSC-8850	27(木)/28(金)
ローランド大阪会場	iMac OS9)	SingerSongWriter4.0	ローランドSC-8850	12(水)/13(木)
"	Windows98(FMVK350L3/C355L3)	Cakewalk ProAudio9	ローランドSC-8850	12(水)/13(木)
"	Windows98(FMVK350L3/C355L3)	SingerSongWriter5.0	ローランドSC-8850	12(水)/13(木)
ヤマハ東京会場	iMac OS9)	XGworks3.0	ヤマハMU2000	27(木)/28(金)
"	iMac OS9)	Logic Audio Gold 4.2	ヤマハMU2000	27(木)/28(金)
"	Windows98(FMVK3503)	XGworks4.0	ヤマハMU2000	27(木)/28(金)
"	Windows98(FMVK3503)	SingerSongWriter5.0	ヤマハMU2000	26(水)午後のみ
"	Windows98(FMVK3503)	Recomposer for Windows95/NT-3	ヤマハMU2000	26(水)午後のみ
ヤマハ大阪会場	iMac OS9)	XGworks3.0	ヤマハMU2000	12(水)/14(金)
"	iMac OS9)	Performer6.03	ヤマハMU2000	12(水)/14(金)
"	Windows98(FMVK3503)	XGworks4.0	ヤマハMU2000	12(水)/14(金)
日本工学院八王子会場	Windows98(FMV6400TX2)	Logic Audio4.1	ローランドSC-88or/SC-88	24(月)
名古屋自由学院短期大会会場	Power Macintosh G3(USB.1)	Digital Performer 2.4	ヤマハMUSO/80/90	25(火)/29(土)

・合格通知：

合格発表 平成12年8月31日(木)社団法人音楽電子事業協会(AMEI)ホームページ上にて発表。

合格通知書と「MIDI検定2級ライセンスカード」(合格証書発行可)を個人宛9月上旬発送。

弾ける! さわれる! 楽しめる! デジタルミュージックの展示会

デジタルミュージックフェア

~MIDI WORLD 2000~

2000.7.20^{木/祝} - 23^日
[Thu] [Sun]
東京ビッグサイト 西ホール
10:00-17:00

- 主催:(社)音楽電子事業協会、日本経済新聞社
- 後援:通商産業省、文化庁
- 協力:(財)マルチメディアコンテンツ振興協会、
日本楽器フェア協会、日経BP社、日経ホーム出版
社、テレビ東京

出展社一覧(五十音順、6月1日現在)…カシオ計算機、
河合楽器製作所、コルグ、シーミュージック、第一
興商、日本シンセサイザー・プログラマー協会、日
本電子専門学校、松下電器産業、ミュージックネ
ットワーク、ヤマハ、ローランド

■同時開催■

もっと楽しい、もっと得する、インターネット生活。

ぱそまる2000

会期: 7月20日(木・祝) - 23日(日)
会場: 東京ビッグサイト 西ホール
主催: 日本経済新聞社

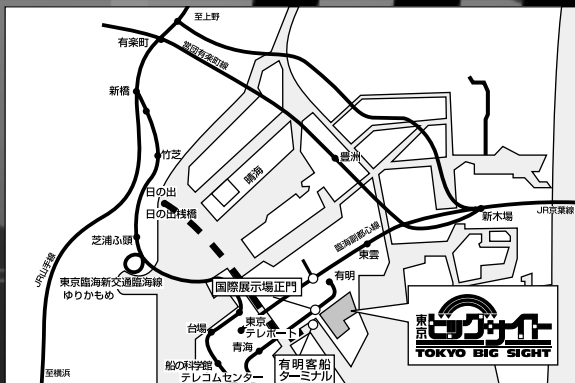
21世紀の技術展

The Exhibition of Dream Technologies for the 21st Century

会期: 7月21日(金) - 8月6日(日)
会場: 東京ビッグサイト 東ホール
主催: 日本経済新聞社 共催: 東京都

会場へのアクセス

- 臨海副都心線
JR、営団地下鉄有楽町線新木場駅→5分→国際展示場駅(下車徒歩5分)
- ゆりかもめ(東京臨海新交通臨海線)
JR、営団・都営地下鉄新橋駅→20分→国際展示場正門駅(下車すぐ)
- 水上バス
浜松町(日の出桟橋)→約25分→有明(下船すぐ)



デジタルで、音楽はここまで楽しくなる!

©Institute of Information Arts, Nishimoto Kunio.

<http://www.amei.or.jp/dmf/>



ミレニアム特別企画

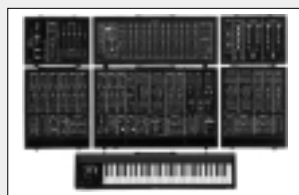


Millenium Special No.1

シンセサイザー・ミュージアム 「あの曲は、この一台から生まれた。」

創成期のシンセサイザーから現在の最新機器までがズラリ勢揃い。多くのアーティストに愛された名機が、数々のヒット曲とともに甦ります。

登場する電子楽器……System700、Jupiter-8(ローランド)、GX-1、DX7、SILENT ENSEMBLE Pro 2000(ヤマハ)、PS-3300、MS20(コルグ)、MINI Moog(Moog)、Prophet-5(Sequential Circuits)ほか



System700



DX7



Prophet-5

Millenium Special No.2

MIDI SPECIAL TOP FORUM 「電子楽器の発展と未来」

電子楽器の最先端を見つめ続けた方々に、次世代の音楽とテクノロジーについて語っていただきます。電子楽器関係者、シンセサイザー&MIDI学習者必須の講演です。

日時：7月22日(土)14:00-16:00

場所：東京ビッグサイト 会議棟6階605会議室

受講料：3,000円

講演：第1部：「電子楽器の開発」—電子楽器の登場と音源開発
和智正忠氏(ヤマハ(株)取締役楽器事業本部副本部長)
第2部：「MIDI誕生の背景とこれから」MIDI誕生と未来
梯郁太郎氏(ローランド(株)取締役会長)
第3部：「シンセサイザー音楽」—音楽と音響、映像と音楽
富田勲氏(作曲家、日本シンセサイザー・プログラマー協会会長)

申し込み方法：受講料を下記宛に郵便振替で入金してください。

郵便振替口座 00130-6-77839

加入者名義 社団法人音楽電子事業協会

※通信欄に「MIDI SPECIAL TOP FORUM受講希望」とご記入ください。※デジタルミュージック・フェアホームページから事前登録されることをお勧めします。受講締め切り：7月10日(月)



和智正忠氏



梯郁太郎氏



富田勲氏

Millenium Special No.3

松武秀樹 「MIDI 古今東西ミレニアム講座」

「MIDI」をインターフェースにすると、音楽はここまで面白くなる!! MIDIや周辺機器の発展によって何が可能になったのか、そしてどう変わって行くのかを、「シンセサイザー・テクノ・ルーツ」松武秀樹氏が語ります。

日時：7月21日(金)13:00-15:00

会場：東京ビッグサイト

西ホール2階 セミナールーム

参加料：3,500円(事前申し込み 3,000円)

講師：松武秀樹
(シンセサイザー・プログラマー、
アーティスト)



松武秀樹氏

事前申し込み方法

デジタルミュージック・フェアホームページ
でご登録の上、郵便振替にて受講料を
お支払いください。

毎日開催 MIDI検定セミナー(初級/中級/上級)

MIDI検定に関する情報をセミナー形式で紹介します。
当日会場まで直接お越しください。

■タイムスケジュール

20日(木)

13:00-13:40「3級入門講座」参加無料
14:00-15:30「3級初級講座」1,000円

21日(金)

11:00-11:40「3級入門講座」参加無料
15:30-17:00「3級中級講座」1,000円

22日(土)

11:00-12:30「2級上級講座」1,500円
13:00-13:40「3級初級講座」参加無料
14:00-15:30「3級中級講座」1,000円

23日(日)

11:00-12:30「2級上級講座」1,500円
13:00-13:40「3級入門講座」参加無料
14:00-16:00 特別講座「MIDI プロダクション」2,000円

展示会場案内図



社団法人音楽電子事業協会 ブース

●IEEE1394を用いたMIDIとオーディオデータの転送デモ

AMEIでは、DV、パソコン、AV機器への搭載が急テンポで拡大している話題の高速インターフェイス「IEEE1394」をMIDI機器へ応用するため、規格の標準化に取り組んでいます。今年は、従来のMIDI規格委員会の枠を越えた「1394プロジェクト」を発足させ、IEEE1394でMIDIを伝送する為の標準規格、および運用ガイドラインの策定、楽器用IEEE1394インターフェースチップの仕様策定、IEEE1394MIDI機器間のコネクション・マネージメントの仕様策定、をテーマに活動しています。

今年のAMEIブースでは「1394プロジェクト」の発足に合わせてデモスペースを広く取り、昨年までのIEEE1394によるホームレコーディング環境の提案に加えて、新たにプロ用機材の試作機の展示と、IEEE1394を身近に感じていただけるデモを予定しております。

前回の AMEI News Vol.12で同ワーキンググループの発足から今後の展開についてレポートしましたが、6月21日付新聞等で「同ワーキンググループはコンテンツ制作企業、端末メーカーなどに参加を呼びかけ、共同で今秋までにガイドラインを策定する」と発表しました。

【携帯端末へのMIDI採用について】

現在、着信メロディ市場においては、単音から数音といった範囲の発音数を持った端末が市場に出ており、近い将来、GMにて定義されている最低発音数24ボイスなどにも対応できるレベルを持った音源内蔵の携帯端末が開発されることが予想されます。

本来、MIDIは送信側と受信側が一元的に管理されていることを前提として考案されたプロトコルであり、コンテンツプロバイダー、キャリア、携帯端末メーカー、音源（LSI）メーカーと分業された現在の着信メロディ市場に於いて互換性を保つためには、それぞれ

の分野に於けるガイドライン的な存在が必須となるでしょう。単にSMFやGM準拠といった定義だけでは、下記「携帯端末へのMIDI採用に関するモバイルMIDIワーキンググループ審議予定項目について」に示すように互換性が保てないことが容易に考えられます。

このような規格の解釈上の相違による互換性の問題を解決するとともに、将来に向けた新技術（GMレベル2、電子透かし、歌詞、音声同期、著作権、画像）の追加も視野に含めた新たな技術に関する検討を目的とした活動を行っていきます。

【携帯端末へのMIDI採用に関するモバイルMIDIワーキンググループ審議予定項目について】

MIDIのコンテンツは、再生を行う対象デバイス（MIDI音源）の機能・性能に合わせてデータ制作を行うのが一般的になっています。

SMFはMIDIを格納する単なる入れ物であり、格納するMIDIの内容についてより詳細に決定しないと、デバイスの性能限界によって再生がうまく行えないコンテンツが氾濫する恐れがあります。

例えば、同時発音数が24音で構成されるSMFを同時発音数が16音であるMIDI音源で再生した場合、16音を越えた音色は全く発音されないか先に発音中の音が聴き苦しく途切れることになります。これを解決するためにはサービスの品質を考慮した上で「コンテンツ制作に関する取り決め」と「デバイス制作に関する取り決め」を注意深く決定する必要があります。また、順番が重要な意味を持つMIDIメッセージを同時に送信するように記録されたSMFは、どちらが先に送信されるか分からず、演奏表現の相違を招きます。解決には「送信機器（シーケンサ）についての取り決め」なども必要になってきます。

モバイル MIDI ワーキンググループでは、これらの課題解決に向け、それぞれの取り決めを

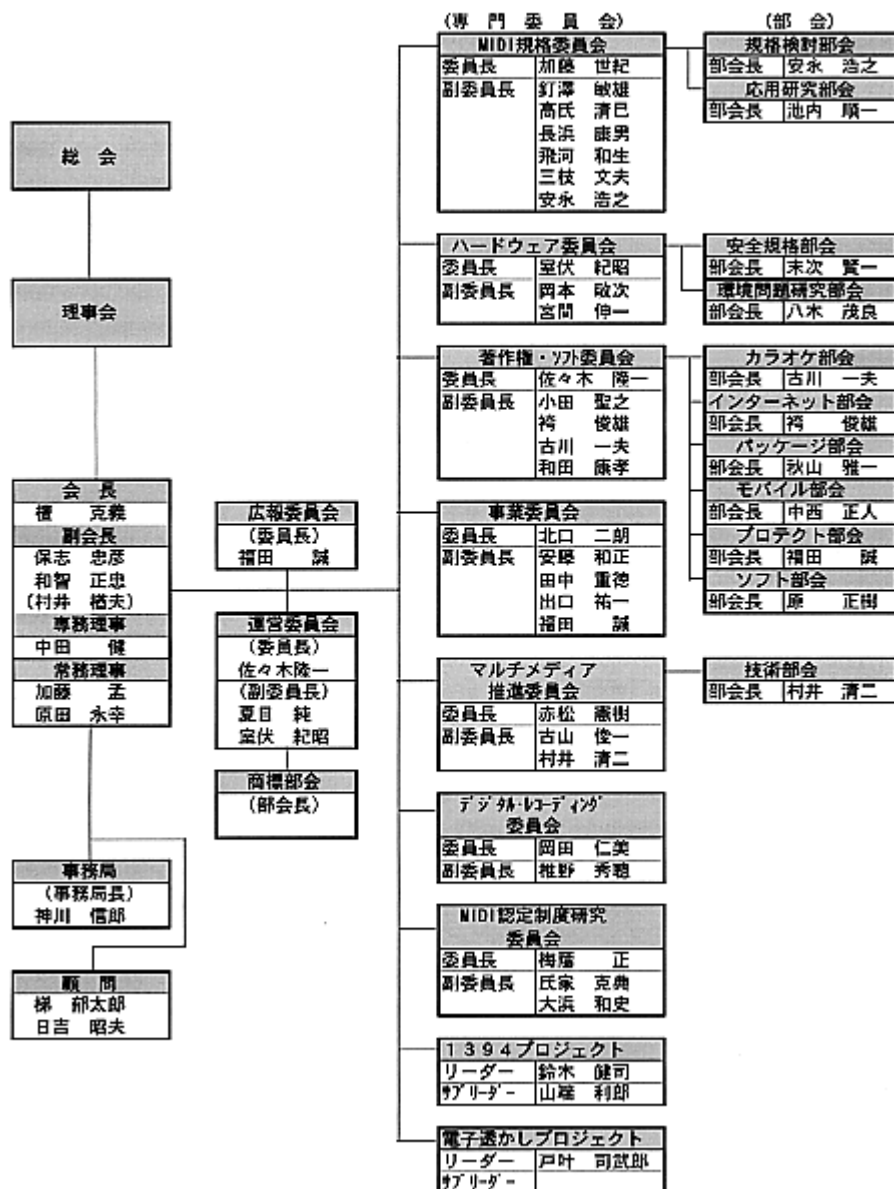
- ・コンテンツ制作に関する取り決め
 - コンテンツ制作ガイドライン
- ・デバイス制作に関する取り決め
 - デバイス制作ガイドライン
- ・送信機器（シーケンサ）についての取り決め
 - 端末（シーケンサ）制作ガイドライン

として、これから平成12年秋の完成に向けて取り組んでいく予定です。

以下は、具体的な検討すべき内容です。

- コンテンツプロバイダに関する項目
 - ・制作コンテンツで利用できる同時発音数、音色セットの内容
 - ・テンポ精度を考慮したコンテンツ制作
 - ・音源や端末処理を想定した上でのデータ作成（メッセージ順序など）
 - ・要求されるサイズに押さえたデータ作成
 - ・原著作物の権利を考慮した電子透かしへの対応
 - ・使用するオーサリングツールおよび制作したコンテンツの検証
- キャリアに関する項目
 - ・サービスとして期待される品質（同時発音数、音色セット、音源機能など）、コンテンツサイズ
 - ・キャリア間、端末間サービスの互換性
 - ・著作者の権利考慮、暗号化やコピープロテクションの方式
- 端末メーカーに関する項目
 - ・シーケンス再生時に考慮すべき同時発音数
 - ・著作権保護技術のサポート（電子透かし読み出し、暗号化やコピープロテクション）
 - ・必要十分なテンポ精度の確保
 - ・正しいシーケンス再生のための、メッセージ処理法やサイズ、許容できる音質、音のもたまり、メッセージ送出順序等
- 音源（LSI）メーカーに関する項目
 - ・サポートする最低限発音数
 - ・サポートすべき音色セット
 - ・正しいシーケンス再生のための、メッセージ処理法やサイズ、許容できる音質、音のもたまり等

社団法人音楽電子事業協会組織図



(社) 音楽電子事業協会 平成12年度役員名簿

会 長	檀 克義	ローランド株式会社代表取締役社長	理 事	中村 紘一	株式会社タイトー顧問
副 会 長	保志 忠彦	株式会社第一興商代表取締役社長	〃	西 和彦	株式会社アスキー取締役兼デジタルコンテンツアドバイザー
副 会 長	村井 植夫	株式会社パナソニック代表取締役社長	〃	羽方 将之	カシオ計算機株式会社常務取締役
副 会 長	和智 正忠	ヤマハ株式会社常務取締役楽器事業本部副部長	〃	久田 鎮雄	株式会社エクシング代表取締役社長
専務理事	中田 健	社団法人音楽電子事業協会事務局	〃	松川 修二	日本電気株式会社NECエレクトロニクス技術本部応用ソフトウェア技術部ディレクター
常務理事	加藤 孟	株式会社コルグ代表取締役会長	〃	三森 茂樹	株式会社セガ・ミュージックネットワークス代表取締役社長
常務理事	原田 永幸	アップルコンピュータ株式会社代表取締役社長	〃	森澤 克字	株式会社河合楽器製作所取締役電子楽器事業本部部長
理 事	赤松 憲樹	学校法人尚美学園理事長	〃	山川 隆	ニフティ株式会社常務取締役
〃	荒木 徹朗	ティアック株式会社取締役技術開発本部長	〃	山本 喜則	ソニー株式会社ホームネットワークカンパニーホームメディアカンパニーディレクター
〃	飯沼 浩	ビクターエンタテインメント株式会社代表取締役社長	監 事	大内 和衛	株式会社キューブ代表取締役社長
〃	伊与田 悠	富士通株式会社ネットワークサービス本部部長代理	〃	勝股 敦	株式会社シーティーエー代表取締役社長
〃	梅舎 佳紀	株式会社ヤマハミュージックメディア代表取締役社長	〃	加藤 俊秀	株式会社山野楽器海外事業部長
〃	小川 義章	パイオニア株式会社デジタル事業部統括部長	顧 問	梯 郁太郎	ローランド株式会社代表取締役会長
〃	大坪 文雄	松下電器産業株式会社代表取締役常務A V C社副社長	〃	日吉 昭夫	ヤマハ株式会社特別顧問
〃	大橋 幸雄	株式会社ブリマ楽器代表取締役社長			
〃	佐々木隆一	株式会社ミュージックシーオーブ代表取締役会長			
〃	島村 元紹	島村楽器株式会社代表取締役社長			
〃	田中 義雄	株式会社J E U G I A代表取締役社長			

会員名簿（五十音順）

あ アークテック株式会社 株式会社アートポスト 株式会社アイ・オー・データ機器 株式会社アイシックス 株式会社アイデックス アイワ株式会社 アイワプロフェッショナルIAI株式会社 株式会社アスキー アップルコンピュータ株式会社	す 株式会社ズーム 株式会社鈴木楽器製作所 せ セイコーインスツルメンツ株式会社 株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス そ ソニー株式会社	へ ベスタクス株式会社 ま 松下通信工業株式会社 松下電器産業株式会社 松下電工株式会社 み 有限会社ミュージカルプラン 株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー 株式会社ミュージックネットワーク ミュージックノート株式会社
い 株式会社石橋楽器店 株式会社インターネット インフォコム株式会社 え 株式会社エクシング 株式会社エム研 株式会社エムゾーン	た 株式会社第一興商 株式会社タイカン 株式会社タイトー 大日本印刷株式会社 株式会社タムラ製作所 つ 株式会社ツーカーセルラー東京	も 株式会社モリダイラ楽器 や 株式会社山野楽器 ヤマハ株式会社 財団法人ヤマハ音楽振興会 ヤマハミュージックトレーディング株式会社 株式会社ヤマハミュージックメディア
お 有限会社オプ・インターラクティブ 株式会社音響総合研究所 か カシオ計算機株式会社 株式会社カカ・フュージョン加加インテリジェント カモンミュージック株式会社 株式会社河合楽器製作所	て ティアック株式会社 T D K株式会社 株式会社電波新聞社 と 東映ビデオ株式会社 東京サウンド株式会社 に 株式会社日光堂 ニフティ株式会社 学校法人日本工学院専門学校 日本コロムビア株式会社 日本シンセサイザー・プログラマー協会 日本電気株式会社 日本ビクター株式会社	ゆ 株式会社有線ブロードネットワークス ら 株式会社ラグナヒルズ り 株式会社リットーミュージック 株式会社リムショット ろ ローランド株式会社 わ 株式会社ワキタ
き ギガネットワークス株式会社 有限会社キュービックエナジー 株式会社キューブ く クラリオンソフト株式会社 こ 株式会社コナミコンピュータエンタテインメント東京 株式会社コルグ コロムビア音響工業株式会社 さ 株式会社サンワード	ひ パイオニア株式会社 ふ 株式会社P F U 株式会社ビーエムビー・ドットコム ビクターテクニクスミュージック株式会社 ビクターレジャーシステム株式会社 ふ 株式会社フェイス フォステクス株式会社 不二音響株式会社 富士通株式会社 株式会社プリマ楽器	ろ ローランド株式会社 わ 株式会社ワキタ 以上、会員会社90社 賛助会員 株式会社大阪村上楽器 株式会社日本経済新聞社 有限会社博秀工芸 株式会社ミュージックトレード社 有限会社ミューレイディア 株式会社ラプラス
し 有限会社シーカーズ 株式会社シーティーエー 株式会社シーミュージック ジェイフォン東京株式会社 島村楽器株式会社 シャープ株式会社 株式会社JEUGIA 学校法人尚美学園	ふ 株式会社フェイス フォステクス株式会社 不二音響株式会社 富士通株式会社 株式会社プリマ楽器	ろ ローランド株式会社 わ 株式会社ワキタ 以上、賛助会社6社

AMEI会員専用ホームページ開設のお知らせ

4月1日よりAMEI

会員専用ホームページの開設を予定しています。

このページ内容は各委員会などで予定されている会議等のスケジュールをお知らせすると同時に、既に開催された会議などの議事録を閲覧することができます。

あらかじめ登録された会員にID、パスワードが交付され、このページに入るには、このIDとパスワードの入力が必要となります。

登録は、必ず以下のフォームにより電子メールにてお願いします。

登録のためのフォーム

- メール Subject の項に、AMEI member HP registration（半角文字に限る）と必ず明記
- 本文に お名前、E-mail アドレス、会社名、所属、TEL、FAX を記入
- メール送付先 webmaster@amei.or.jp